

82年度第3期

テーマ

『冬をいかにむかえ撃つか』

今週は(金旺)

討論集会

夜間学校ニュース

— 発行 —
 金ヶ崎夜間学校
 西成区萩ノ茶屋2-8-18
 喜望の家気付
 こんわ647-3946
 (木よう日夜7じ〜9じ)

今年も冬がやってきました

備之はよいか!!

明日(26日)夜6じ市民館

越冬斗争討論集会に

あつまろう!!

夜間学校 共催 越冬実

11月の夜間学校は、越冬を中心に話しあってきました。特に、先週と先々週は、越冬の歴史と言うことで、これまでとどのように越冬がとり組まれてきた

たか、ふり返りながら話し合ってきました。70年の暮から本格的に取り組まれてきた越冬も早いもので、今年では回目になります。非常に残念なことには、

「青カン」をされている仲間として、「行放病死」と言う形で殺されていく仲間は年々増えこそすれ、「越冬」に参加する仲間は、むしろ減っていています。冬場、わしらにかけられる攻撃は、何と言ってもまぶやーに、「青カン」を強いられている仲間に対して生命の危機としてあらわれます。しかし、決してそれだけではなく、元気で休める仲間に対しても、「アフレ地獄」としての攻撃がかけられてきます。今年も、就労申告書しが8月一杯で廃止されたこともあり、アフレ賃をもらえない仲間が多くあることも予想されます。やはり、「越冬」は皆の間

越冬斗争討論集会 内容

- ・ 越冬の映画
- ・ 越冬の歴史
- ・ 秋の医療週刊の報告
- ・ これからの仕事の見通し
- ・ 他の寄せ場の取り組み
- ・ 討論

題です。個人の努力は大切ですが、それだけではなかなか問題は解決しません。仲間一人一人が自分の意見を出し合って、今年の越冬を成功させようではありませんか。夜間学校は毎週木曜日にやっていますが、今週は、おは回越冬実と共催でやるので明日、金曜日市民館でやります。ふる、ご参加を。

〈前回の報告〉
12回の越冬をたどって
82越冬を考える
 今問われているものは

六

一年暮から六二年正月にかけての越冬が「社会に貢献して、いる俺たち労働者が、冬の寒空の下で青カンセンといかんのはおかしー」というところから開始されましたが、七〇年度の第一回越冬では、その年の十月にセンターができたものの、暮の三日には閉鎖された仕事がなく、一暴動が発生しました。労働者同士の助け合いで冬をのりきろうということではじまりました。第一回は炊き出しとパトロールが中心でしたが、第二回（七一年度）から越冬闘争実行委員会がつけられ、また花園公園ではテント村が設置され、ドヤのある人もいっしょに

タキ火を囲んで歌を歌ったり話しをしたりしました。

「パトロールも二回やったし、テント村の全員がそれに参加したもんや」

「ドヤや商店をまわってカンパを集めたのもやっぱりこの頃やけど西成署の妨害もあったし」

「大みそかには、紅白歌合戦に對抗してのど自慢大会もした」

四

五回（七三年度、七四年

度）ごろまでは、青カンセン人とそうでない人との間に連帯感が強く、意気があがって、大阪市の際泊（長柄原、港湾労働福祉センター、藤栄会館等）の改善にもとりくみました。

「皆で臨泊（おし）かけて、期間を延長せえとか、生活資金をだせとか要求したり、タバコの量を増やさせたりした」

六

六回（七五年度）の後からほぼ炊き出しが通年化して、

七回（七六年度）からギリギリスト教からの本格的な支援がはじまり、八回（七七年度）からセンター前の布団しきがスタートし現在にいたっています。また、六回から南港での臨泊が開かれ、始まる收容所的色彩が強くなってきました。行政に対して仕事を任せ等という働きかけも続けられたものの十分な効果をあげられないままです。一方労働現場での闘いをもちと重視すべ

越

冬は、パトロール、たきだし専門といった見られ方が固定化してきているのでは？という声から、今後のあり方についてさまざまな意見がだされました。

「拠点がないのは痛い、三角公園でテント村を作ったらどうや」
 「寿では、シノギヤバク千退治を重泉にしている、釜でもやたらええ」
 「もっと行政に圧力かけなめか、そうせえへんのなら共済組合でも作るしかないで」
 「大阪市の越冬対策の金の使い方、一度洗いなおす必要があな」
 「署石を集めて大阪市議会にもっていこう」
 越冬は一部の人だけの問題ではなく釜の労働者全体の問題です。皆でもちと千エを出しあおう」